

検証

# 拓銀 崩壊

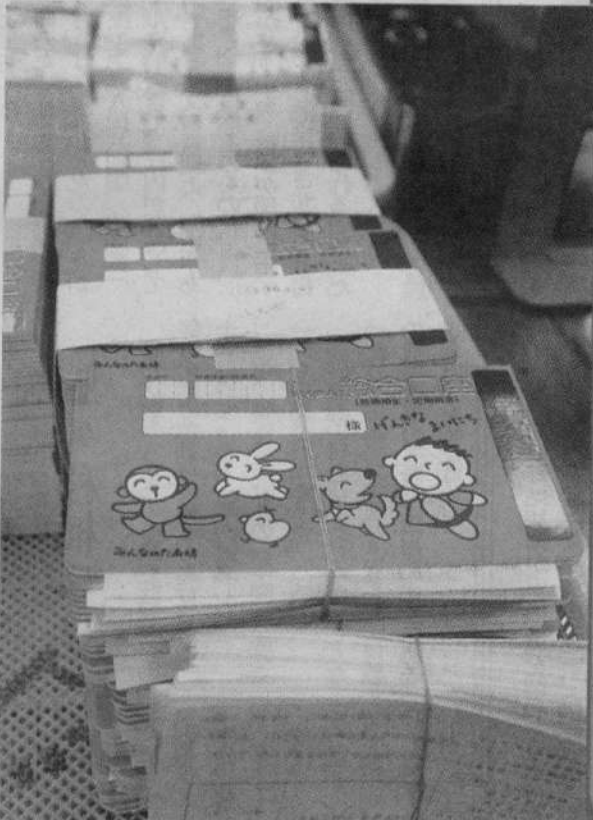
<10> 10.10.16

状況にあることは知らされていた。「頭取は大変な決断を

## 決断

「頭取は大変な決断を」  
波乱の一日は一本の電話から始まった。  
昨年十一月十五日、土曜日の前十二時ごろ。北洋銀の高向巖副頭取は札幌市内の自宅から近所に買い物に出掛けようとするところを、鳴り響く電話のベルに呼び止められた。

「相手は日銀の増資検査用機 権局長。「今すぐ大蔵省に連絡をとるよう武井頭取に伝えてほしい」。高向は受話器から押し寄せてくる緊迫感に一瞬たじろいだ。  
拓銀の資金繰りが危機的な



**通帳** いくつもの数字から連絡をとった。「拓銀がなかった。自分が断れば、ラ字に、家計の月曜日の資金繰りがつかなくなった。河谷頭取が受け血行として北洋銀を希望している。今日中に受けてもらえないと週明けの北海道経済は大混乱を起こす」。大蔵省の内務はよろしく願います」

ある銀行に異変が起きれば、地元金融機関に事前連絡するのが金融行政の常。延期としたとはいえ、表向き拓銀と道銀の合併交渉は続いている。道銀に営業譲渡するのを相手に「時間近く。「北洋銀が受けないと業務停止命令を出さざるを得ない」と決断する山口らに、「われわれは検討もしていない。せめて数日待たないかと武井。段階で拓銀からの営業譲渡が固まった。

電話を切った武井は別の会社に出た後、午後四時ごろ北洋銀本店四階の役員応接室に高向と吉小牧での同窓会に出していた高橋隆司副頭取を呼び集めた。

銀への営業譲渡がほぼ固まりつつあった。高向は出張先の東京から空路、新千歳空港に降り立った武井を急ぎよ自動つのため、武井は会場の道新

「もうしょうがない」。送金停止、取り付け騒ぎなど予想される混乱を回避することに「至し命題だ」。首脳三人の思いは同じだった。とりあえず「日銀特融が出る」「預金保険機構から資金が出る」「北洋銀への営業譲渡は道内のみ」という三条件を大蔵省との間で確認。この段階で拓銀からの営業譲渡が固まった。

# 運命変えた電話交渉

普段から日銀とのパイプが太く、日銀が大蔵省と北洋銀との橋渡し役になることも多かった。この日、東京では大蔵省と日銀の間で拓銀から北洋

道新大通館前では高向が待ち構えていた。大通館一階の公衆電話、開演の約三十分前、武井は高向から連絡先の電話番号をもらい、この公衆電話

武井は待ち受ける大事業に身震いする思いだった。  
敬称略、肩書は当時  
拓銀問題取材班